

令和6年2月3日(土)、4日(日) 長崎県への視察研修旅行を実施した。

初日は、史跡料亭 花月を見学。



こちらは、長崎に丸山遊郭が誕生した寛永19年(1642年)から明治5年(1872年)の芸娼妓解放令に至るまで続いた唯一の店である引田屋の本家建物と庭園を受け継ぎ、今もなお当時の姿を残しており、当時の楼号(屋号)である『花月』を用いて『史跡料亭 花月』として営業している。

歴史的資料の見学もでき、また、当時、外国人を相手とする唯一の遊郭であり、ポルトガルをはじめオランダ、中国など世界と繋がっていた長崎ならではの和華蘭料理である卓袱料理を味わえるお店である。

女将の挨拶の後『お鯖をどうぞ』から始まる伝統料理に、長崎の歴史を感じた。



一卓一卓に大皿で数人分の料理を盛る卓袱形式は、身分の上下に関わらず円卓を囲むことができるため、町人たちが多い長崎で大いにうけ、特に宴席で好まれるようになった。

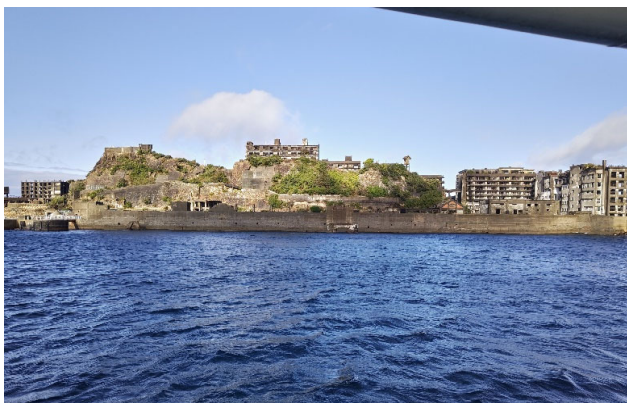
その後も時代とともにさらに洗練され、今なお長崎における郷土料理の代名詞として愛され親しまれている料理、それが卓袱料理です。

朱塗りの円形テーブルを卓袱と呼ぶそう

翌日4日(日)は世界遺産である軍艦島(端島)の視察研修を行った。



当日は生憎の天気に見舞われ、波も高く軍艦島へ上陸することは叶わなかったが、船で近くまで行き、その外観を見ながら当時の様子を語っていただいた。



長崎港から船で約40～50分の場所に位置し、良質な石炭が採れることから明治時代から昭和にかけて日本のエネルギーを支える採掘の要として栄えた端島は、その見た目から軍艦島と呼ばれた。

0.063km²という 東京ドーム約1.3個分の面積の島内に、最盛期(1960年当時)5,267人が暮らしていた軍艦島の人口密度は、東京都の約17.5倍だった。

この過密な人口の居住スペースとして設けられた日本最古の鉄筋コンクリートアパートは今なお現存しており、今回は叶わなかったが、上陸できれば間近に見ることができる。斯様な環境にあっても、当時の島民の暮らしぶりは意外と豊かだったそうで、テレビの全国普及率が10%だった時代に軍艦島では普及率ほぼ100%であり、また、購買会や個人商店の普及で、生活必需品に困ることはなかったという。

島には小中学校に保育所、病院などが完備され、遊興施設として映画館、酒場、パチンコ、麻雀、ビリヤード、囲碁・将棋、ショッピングを楽しむ場所から、遊郭等までかなり充実していたよう。

また、小中学校の教員宿舎は校舎と渡り廊下で繋がっており、通勤の便が良かったこともうかがえる。

資源の採掘場所である軍艦島まで毎日鉱員が通うのではなく、そこに住み、働くことでロスを削減、また、そこでの生活を充実させることで鉱員並びにその家族の不満が出にくくしていた軍艦島のこのかたちは、2024問題を目前に控え、ドライバーの労働時間の抑制が急務である我々運送事業者にとって、ひとつの在り方としてのヒントになったのではないだろうか。

2024問題に限らず、少子高齢化により益々加速していく人材不足や、いまだ高止まりを見せる燃料高騰問題など、我々運送事業者を取り巻く環境は厳しい状況ではあるが、業界の外に目を向けて、今回の様に事業に活かせるヒントを得られる機会は有意義であると思うので、また何か企画した際には、是非とも多数の会員に参加していただきたい。

今後とも、研修会・講習会などを始め、各種事業を展開し、会員事業者の益々の発展に寄与すべく活動を続けていく所存です。